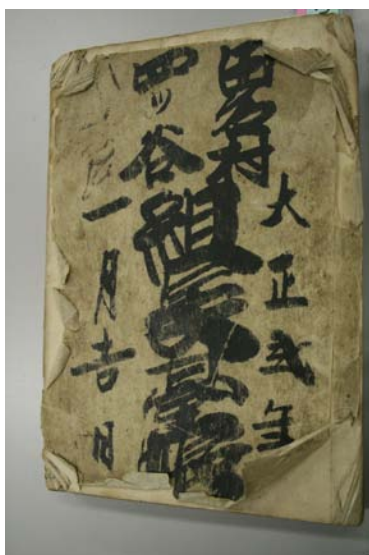


地域力の達人

～ 相模原市地域活動事例集（自治会編） 平成 21 年度版～



編集・発行 相模原市 市民局 市民活力推進部 市民協働推進課

目 次

地域の特性を活かした活力づくり（和田自治会）	1
2つの自治会でつくりあげる夏まつり（東橋本第1自治会・東橋本第2自治会）	3
地域住民が楽しめる、仲間づくりの夏祭り（相模原駅前自治会）	5
あの夏の日の思い出（相武台前町内会自治会連合会）	7
道志川とのふれあいと交流の機会、あゆまつり（宮下自治会（青野原自治会連絡協議会））	9
地域をつなぐ夏まつり（自治会法人新淵自治会）	1 1
防犯パトロールによるきれいで、安心なまちづくりを目指して（自治会法人田名四ツ谷自治会）	1 3
犯罪ゼロを目指して ～青葉3丁目自治会の取組～（青葉3丁目自治会）	1 5
「安心して住める街づくり」を目指す（下九沢加藤原自治会）	1 7
災害に強いひとづくり ～救急救命講習～（谷戸自治会）	1 9
「地域力の達人」について	2 1

特徴・ポイント

和田自治会の歴代会長など、より活動的なメンバーで組織する「和田の里 みちくさの会」は、地域にある人材と竹木などの資源を活用したさまざまな体験プログラムを企画・運営しています。このプログラムの一つである「竹細工」は、昔ながらの竹とんぼやカブトムシなど自分で物を作る楽しさを知ってもらうことができるほか、指導する地域の人達との交流が楽しみの1つになっています。竹細工のほか、うどん打ちや茶摘み体験など、各種プログラムが用意されています。

市内外からたくさんの人たちに「和田地区を知ってもらおう」、「地域の人と交流してもらおう」ことによって、和田地区に元氣（活力）を与えています。

課題・展望

竹細工などの体験プログラムにより、独自の活力づくりを



竹細工を楽しむ子供たち

場を提供できると考えています。もう1つは、山の保全で伐採した間伐材を使った体験プログラムでの「地域交流」と、オリジナル製品の開発による「新しい産業の育成」が考えられます。

体験・取材した職員から一言！！



時代が移り変わっていく中で、この地域のことを考え積極的に体験教室など様々な試みをされている姿が印象的でした。緑が深く、また茶畑や蔵など非常に景観の良い地域なので、未長く保たれていくことを願います。（介護保険課 竹内）



地域の持つ魅力・実情を再認識したうえで、将来像を模索する和田自治会。同地区の取り組みは、合併により多様な地域性を持つことになった本市の地域政策の指針になるものと感じました。（防災支援課 阿部）



取材を通じ、地域の皆さんから、豊かな自然と住みなれた場所を守りたいという強い思いを感じました。また、竹細工を体験する家族の笑顔と「またいつでも遊びにおいで」という地域の皆さんのやさしい言葉がとても印象的でした。（土木政策課 後藤）



山の斜面に広がる美しい茶畑

地域の特性を活かした活力づくり

事例の概要

和田自治会は、市の最北西部に位置し、地域の産業である山の斜面に切り開いた茶畑と今も残る土蔵が美しい自然と景観を引き出しています。

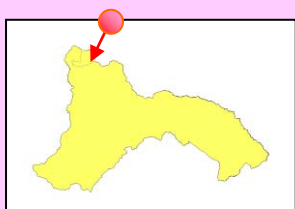
過去から世帯数や人口に大きな変化はないものの、市街地への通勤や通学により若者と高齢者の接点が希薄になるという課題を抱えています。

和田自治会では、地域の実情としてやむを得ない通勤や通学による若者の流出を防ぐのではなく、地区外からの人たちを呼び込むことによって、地域活力の向上を目指す取り組みを「和田の里 みちくさの会」と連携して行っています。



陣馬山の麓には、豊かな自然が残ります

団体の基礎DATA



団体名◇和田自治会
世帯数◇56 世帯
代表者名◇小林 満さん



問い合わせ先⇒小林 満さんまで
電話 042-687-5151

まつりでは大人たちだけで



次世代へと受け継がれるお囃子

また、まつりでは大人たちだけで

両自治会はお互いの交流を深め、かつ、お互いを尊重しあう、という「協調の精神」を掲げており、夏まつりはその見せどころとなっています。数日前からの準備では、実行委員のほか、両自治会と子ども会の役員、中学生の子どもを持つ親子などが集まり、万灯や花飾りなどを作り、子どもたちは、お年寄りにお囃子や地域住民の多くの方々と共に盆踊りを習うなど、交流を深めながら準備を進めることで、本番に向けて一体感を高めています。当日の準備でも、長年ともに活動してきただけあり、自然と役割分担がなされスムーズに作業が進んでいました。

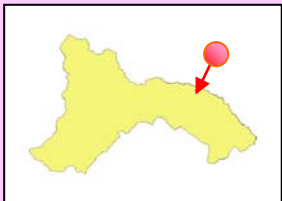
特徴・ポイント

なく次世代を担う子どもたちも活躍しています。お御輿とお賽銭箱を肩にかついでお賽銭を呼びかけ、お囃子を響かせながら山車を引いて町内を回ります。さらに、頭をひねって考えたクイズラリーやビンゴゲームなど子どもたちが企画したゲームもあります。

課題・展望

このように2つの自治会で協力しあい、子どもたちも含めてまつりをつくりあげていますが、今後に向けての課題もあります。まつりをひっぱりつづける自治会役員をはじめとする実行委員の多くが退職者であり、高齢化が進んでいることです。現在は経験を重ねた人たちによって支えられていますが、このまま高齢化が進めばまつりを担う人がいなくなってしまうかもしれません。まつりをはじめとした自治会活動を今後も継続させるためには、次世代の育成が急務です。

団体の基礎DATA



団体名◇東橋本第1自治会
東橋本第2自治会
創立案◇昭和39年
加入世帯数◇第1:650世帯
第2:155世帯

代表者名◇
第1:古川俊夫さん 第2:原照司さん



問い合わせ→
東橋本第1自治会:
会長古川俊夫(773-1580)さんまで
東橋本第2自治会:
会長原照司(772-0714)さんまで

しかしながら、根本的な問題として、次世代を育成する以前に、活動自体に参加してくれる現役世代の人たちがあまりいないのが現状です。次世代育成につながる自治会活動そのものに参加してもらうことが必要です。

体験・取材した職員から一言!!



今回の取材を通して、2つの自治会がお互いを尊重し協力しあうことで、祭りを成功させようとする姿勢が印象的でした。しかし、現在がうまくいっている一方で、将来の活動の担い手不足に不安を感じている実態も分かり、自治会運営の難しさを実感することが出来ました。(拠点整備課 一本鏡)



準備段階から参加させていただきましたが、2つの自治会がやっているとは思えないほど自然で、一体感が感じられました。地域のおまつりはこどものとき以来参加していなかったのですが、今後大切にしていかなくてはならないと思いました。(環境対策課 笹野)



2つの自治会で開催していましたが、誰がどちらの自治会の人か分からないほど、一緒になって祭りを運営していました。準備から祭り当日まで取材させていただきましたが、かなり重労働で、毎年開催していただいている自治会の方々に感謝です。(文化国際課 斎藤)



お賽銭箱をかついでお賽銭を呼びかける子どもたち

2つの自治会で つくりあげる夏まつり



子ども会新聞

橋本駅近くの宮上地区にある東橋本第1自治会と東橋本第2自治会は、昭和39年に小山本町自治会が分割してできた4つの自治会のうちの2つで、京王相模原線に隣接しています。そのため、両自治会の関係は深く、現在でもいろいろな場面で協力して活動しています。

その中でも最大のイベントが夏まつりです。もともとのこのまつりは、宮上地区全体のまつりとして住民の交流を深めるため昭和22年から始められた歴史あるものです。現在は東橋本第1自治会と東橋本第2自治会、そして共同の子ども会であるひがし子ども会の3つが合同で開催しています。

事例の概要

特徴・ポイント

相模原駅前自治会の夏祭りの特徴は催しものの幅広さです。参加自由の盆踊りが中心ですが、子供御輿、創作太鼓、歌謡ショー、抽選会、よさこい踊り、スイカの早食い、子ども花火など盛りだくさんの内容となっています。

このほか、自前の模擬店が特徴です。お祭りに付き物の模擬店は、すべて駅前倶楽部、ひまわり子ども会などのメンバーが自主的に参加し、協力して10店舗ほどの模擬店を開きます。



子どもお御輿出発！

駅前という立地条件にも恵まれて、自治会の会員はもとより、相模原駅前自治会と交流のある小山地区・清新地区からの来客者・見物人、さらに日米親善を目的に招待された米軍

課題・展望

関係の方々も加わり、大いに賑わっていました。

夏祭りを実施するにあたり今後の課題は、①自治会や自治会内の各種団体の役員を育成すること②各種の行事を行う際の参加者・協力者を増やすことです。そのためには、日常的に呼びかけや、効果的なPRが必要で

現在、駅前地域では旧住民の高齢化が進む一方、マンション住民の比率が高まっています。

自治会ではマンション居住者の自治会への加入を促進するために、マンションの建設計画の段階から建築主や管理会社と自治会への加入交渉を行い、建築後はマンション居住者の管理組合に対して、自治会活動の説明会を行っています。

その結果として、自治会への一括加入を図るとともに、自治会活動への関心を高めることに努めています。



みんなでやぐら組み！

地域住民が楽しめる、仲間づくりの夏祭り

事例の概要

相模原駅前自治会では1年を通して小山地区自治会連合会・公民館・商店会などと様々な活動を行う一方、自治会独自の活動として、夏祭り・自主防災訓練などを行っています。その中でも最も盛大に行われる行事が相模原駅前自治会の夏祭りです。

自治会夏祭りは50回も開催の歴史があり、自治会が主催し、自治会内の組織である駅前倶楽部、駅前長寿会、ひまわり子ども会と地元の商店会などが共催しています。

また、夏祭りに使用するやぐらは自治会が独自で所有し、搬送から設営、撤去に至るまで自治会と関連団体が協力して行い、夏祭りには多くの地域住民が参加するとともに自主性にあふれた運営を行っています。



完成したやぐら

体験・取材した職員から一言！！



夏祭りに参加した時にいただいた言葉ですが、「このような地域の現場を知る機会ではいろんな人と交流して、いろいろな人の話や地域の声を聞いてくださいな」と激励されたことがとても心に刻まれました。（市史編さん室 稲垣）



皆で作り上げる夏祭りはとても楽しかったです。再三の取材にもかかわらず、熱心にお話をいただいた手塚会長の思いが、役員や駅前倶楽部を初めとした関連団体の方たちのパワーを引き出しているように思いました。（農林課 溝口）

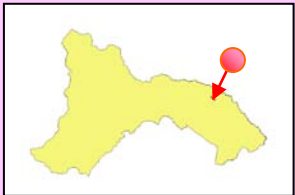


夏祭りを取材して感じたことは開催の自主性、イベントと来場者層の多様性でした。相模原駅前自治会は自治会運営で関連団体の協力による人手不足の解消、協賛金制度導入による資金不足の対応などを行っており、都市部にある自治会の成功例であると感じました。（生活支援課 水野）



お祭りのチラシ配布準備からお手伝いさせて頂きました。封筒とチラシに一部ずつ印を押すなど、手間のかかる作業でしたが、あえて手間をかけるということは気持ちを込めることでもあるというお話しに、感銘を受けました。（スポーツ課 菊地）

団体の基礎DATA



団体名 ◇相模原駅前自治会
世帯数 ◇1,128 世帯
代表者名 ◇ 手塚 淳さん



問い合わせ⇒手塚 淳さんまで
電話 042-752-2473

ちらの祭りは地域内の住民の方々の商店街をはじめと



防犯パトロールの様子

また、運営費の捻出に苦慮する自治会も少なくありませんが、この夏祭りにあっても工夫を重ね、御輿・鼓笛隊・じゃんけん大会など子ども中心の企画を多く用意し、子ども達が自治会活動を通じて心豊かに成長できるよう努力しています。こうした「心」を大切にする姿勢が、現在から未来へ、ずっと続

特徴・ポイント

そんな相武台前連合の夏祭りは、例年7月下旬に1丁目公園で開催され、多くの関係者・来場者でにぎわいます。商店・スポーツチーム・婦人会など様々な団体が店を連れ、太鼓隊・鼓笛隊が練習の成果を披露し、会場はまさに交流の場そのものとなります。来場者が太鼓隊に教わりながら一緒に太鼓をたたき、子どもが年配者の真似をしながら盆踊りを楽しみ、日頃交流を図りづらい人びとが『夏祭り』という同じ空間を共有しています。

課題・展望

しかし、そのような相武台前連合であっても、他の自治会同様『将来の担い手』確保に不安を抱えています。そこで丸塚会長は、若い現役世代に無理な参加を強制するよりも、日常的な連絡を密にすることで信頼関係を構築するよう心掛けています。夏祭りにおいても工夫を重ね、御輿・鼓笛隊・じゃんけん大会など子ども中心の企画を多く用意し、子ども達が自治会活動を通じて心豊かに成長できるよう努力しています。こうした「心」を大切にする姿勢が、現在から未来へ、ずっと続

団体の基礎DATA



団体名◇相武台前町内会自治会連合会
創立年◇平成14年(法人化)
会員数◇2,378世帯
代表者名◇丸塚 幾男さん



問い合わせ⇒丸塚 幾男さん
電話 046-253-5677



じゃんけん大会と鼓笛隊

く『人間味のある自治会活動』を作り上げるのだと感じました。

体験・取材した職員から一言！！



高齢化が進む時代ではありますが、次の担い手となる子ども達にスポットを当てたお祭りの取り組み方に工夫をされているところが印象的でした。また、お祭りの活動を通じた地域内外と交流を図り、地域全体を盛り上げようとしているところに感心いたしました。
(津久井町地域自治区事務所 内山)



「無理に活動をお願いするよりも、信頼関係を築きたい」という丸塚会長。相武台前連合がテーマとし、大切に守り続けているものは、忙しい現代の人びとが忘れかけているものでもあるのではないかと感じました。(道路管理課 小山)



相武台前連合の活発な活動を支えている会長の情熱に、圧倒されました。取材させていただいた夏祭りは、次世代を担う子どもたちのイベントが多く企画されており、子どもたちに対する熱い想いが伝わってきました。(生涯学習課 田中)



盛大な夏祭りの様子

あの夏の日思い出

事例の概要

相武台前町内会自治会連合会(以下、相武台前連合)は、相武台前駅を中心に、15自治会2,300世帯が加入する連合組織です。世帯数が多い点『急速に発展した地域』と『昔ながらの地区』が混在する点が、この連合の大きな特徴となっています。

異なる出身・世代の多くの人びとを、自治会連合として1つにまとめ、協力し合う地域とすることは容易ではありません。防犯パトロール・清掃・社会福祉など活動は多岐に渡りますが、いずれの活動においても『人と人との交流』を最大のテーマに掲げ、地域が一体となって取り組むよう心掛けています。「ただ活動をすれば良いというものではない、地域の人たちが1つになってみんなで活動するから意味があるんだ」との会長の発言は、自治会の真の存在意義を考えさせられる、非常に深く重い言葉だと感じました。



子ども御輿



すぐ売れてしまう鮎の塩焼

道志川を持つ豊かな自然環境にふれあうことを目的とし、た、「鮎釣り大会」、「鮎の放流」、「親子・川の自然観察会」をはじめ、「郷土料理の食体験」を通じて、水源地域の貴重な自然や、魅力ある伝統文化を一人ひとりが共有し、次世代に継承していくことを目的に、「鮎の塩焼き」、「鮎めし」、「鮎の塩焼き体験」などの食体験もできます。さらに中道志川トラスト協会による「美化活動の紹介パネル展示」や特設ステージにおいては、地元青野原小学校生徒による器楽演奏、八王子「小鉄太鼓」による和太鼓演奏などが、

特徴・ポイント

祭りを盛り上げていました。「鮎の放流」では、子供たちがバケツに入れた鮎の稚魚を、「大きくなってね」と声をかけながら、丁寧に放流していました。このような活動をとおして、子供達ばかりでなく大人でもある我々も、今一度、水の恵みをいただいていることを再認識する機会となります。水に親しみ、川を大切に思う心がはぐくまれ、その結果地域を守る気持が芽生えるのだと感じました。

に来てくれていました。あゆまっりの原動力になっているのは、青野原地区の自治会と中道志川トラスト協会ですが、地域全体が一体となっていて、あゆまっりを盛り上げていたのが印象的でした。

課題・展望

青野原地区（地域）の問題として、多くの家庭で子供が成人し、家を離れ、自治会員が高齢化してきていることが挙げられます。宮下自治会は例年あゆまつりへの参加者が少なく、自治会のテントをたてるのも非常に大変になってきています。こうした中、焼きそばの販売等を地元の小中学生が手伝い

団体の基礎DATA



団体名◇
宮下自治会(青野原自治会連絡協議会)
発足◇
昭和37年
(津久井町部落連絡協議会発足年)
世帯数◇45世帯
代表者名◇尾崎 等さん



体験・取材した職員から一言！！



子供たちが楽しそうに鮎を放流する様子を見て、こういった経験が、自然と生き物に対する想像力が生まれ、豊かな環境づくりにつながっていくのだなあと実感しました。(情報システム課 齊藤)



あゆまつりの伝統を守り、子供たちに身近な水や緑・歴史を大切に思う気持ちを学んでもらい、大人になりふるさとに帰ってくる、といった良い循環が生まれれば良いなあと願っています。(予防課 中村)



鮎の塩焼きや焼きそばを焼いていた自治会の方々も、汗だくになりながらも楽しそうに焼いていたのが印象に残っています。また、普段川で遊ぶ機会の少ない子ども達にとって良い体験になったのでは、と思います。(下水道管理課 長澤)



大きくなって帰ってきてね、子どもたちによる鮎の放流

道志川とのふれあいと 交流の機会、あゆまつり

事例の概要

道志川は昭和30年代までは急流として知られ、その昔天然の鮎は鼻曲がり鮎として徳川將軍家に献上されていた歴史もあります。「中道志川あゆまつり」は平成8年から毎年7月に、「鼻曲がり鮎の里」として知られる中道志川流域で行われています。水源の清流を守る中道志川トラスト協会、宮下自治会を始めとした青野原地区の自治会と、流域住民が主体となり、多くの人々に道志川とのふれあいと交流の機会を持つてもらうために行われる催しです。川に親しむプログラムのほか、小学生の器楽や勇壮な太鼓も響き渡ります。また、青野原地区の各自治会が主体となつてつくる、絶品の鮎の塩焼き、鮎めし、焼きそばも味わうことができます。



子どもたちもお手伝い

特徴・ポイント

新淵自治会の夏まつり大会は、地域住民の手で作りに上げることにこだわっています。

開催前には、大きな手作りポスターを町内掲示板に張り出し、自治会加入世帯には戸別に割引券を配布するなど、熱心に集客に取り組んでいます。また、こども会、老人会、商店街等と連携することで、集客と併せて準備要員の確保を行っています。会場には、子ども向けの輪投げや駄菓子、大人用の生ビールなど多くの出店が並び、幅広い世代で楽しむことが出来ます。

準備の段階から外部委託せず自治会中心で行うことにより、

地域住民が自然と協力は合います。

当日には多くの地域住民が集まり、コミュニケーション



やぐら組み立ての様子

課題・展望

ンの場となっています。夏まつり大会を通じて地域のつながりを強化していきたいとの自治会役員の方々の熱い思いを感じました。

地域のつながりを強めるために、自治会は重要な役割を担っています。今回取材した新淵自治会では夏まつりを始め、精力的に様々な活動に取り組んでいました。今後も、継続的な自治会活動を行っていくためには「若年世代を中心とした活動参加率の向上」と「役員の後継者育成」が重要なテーマとなります。

因のひとつとして、自治会活動に関わっていない人にとって一般的に自治会活動は煩雑でつまらないという印象をもたれがちなのが挙げられます。

今後は、若年世代を中心に自治会活動の重要性や楽しさを周知していく必要があると考

えられます。

例えば、子どもたちが中心となつて自治会のイベントを企画・運営するなど、若い頃から自治会活動に触れることで、地域のことを考えることができる人が増えることが期待できま

団体の基礎DATA



団体名◇自治会法人新淵自治会
創 立◇昭和 35 年
世帯数◇808 世帯
代表者名◇森 逸雄さん



問い合わせ⇒森 逸雄さんまで
電話 042-742-6615

体験・取材した職員から一言！！



活動に携わる自治会役員の方々が、自治会活動の負担を感じさせず、地域のためにいきいきと取り組んでいる姿が印象的でした。子供から大人まで誰もが楽しめる夏まつりに、また訪れてみたいと思いました。（介護保険課 竹内）



得てして敬遠されがちな自治会活動ではありませんが、各種イベントをとおして、自治会活動の意義・楽しさを「次代を担う世代」に伝えていきたいという会長を始めとした役員皆様の熱い気持ちが伝わってきました。（防災支援課 阿部）



自治会独自のさまざまな取り組みや工夫があり、地域のつながりの大事さと自治会活動の意義を再認識することができました。役員の方々の熱心な取り組みが夏まつりの皆さんの笑顔を作り出していると感じました。（土木政策課 後藤）



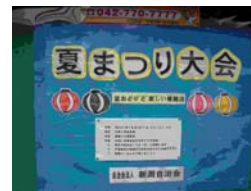
夏まつり大会の様子

地域をつなぐ夏まつり

事例の概要

新淵自治会は、古淵駅に程近い市街地に位置し、駅の開業や大型店舗の進出により人口が増加してきた地域です。近年に移り住んだ人が多く、地域のつながりを確保することが自治会活動の重要な目的となっています。新淵自治会では、自治会の加入促進や防災活動など様々な分野について活発に取り組んでいます。その中でも特に力を入れているのが、地域住民のふれあいの機会となる夏まつり大会です。

今年の夏まつり大会は、7月18日（土）に自治会区域内にある大野小学校の校庭で開催されました。以前は参加者の少なかった夏まつりですが、毎年内容を見直し、様々な工夫をすることで多くの参加者が集まるようになりました。



手作り感溢れるポスター

特徴・ポイント

防犯パトロールでの確認点は多岐にわたります。放置自転車・放置車両・不法投棄物のチェックおよび散乱ゴミの撤去、自治会が管理している約300灯の防犯灯について、防犯灯の電球切れの確認をしながら巡回しています。

特に効果を上げている点が不法投棄物の投棄防止です。パトロール開始前では自治会区域内に放置自転車、不法投棄物が多数あったということでしたが、この防犯パトロール活動により、パトロールで発見するたびに警察に通報して撤去してもらった結果、放置自転車や不法投棄がかなり減ったということです。

また、夜道を明るく照らして



終了後の報告会

いる防犯灯も、不法投棄防止と防犯に役立っています。その結果、現在では自治会区域内での放置車両、不法投棄物がかなり減り、また、防犯灯にも気を配ることにより、犯罪が発生する恐れのある場所を把握し、今後設置すべき場所の計画にも役立っています。

課題・展望

この防犯パトロールが、自治会会員間の情報交換等のコミュニケーションにも役立っていることはいうまでもありませんが、防犯パトロールの参加者が、ある程度固定した自治会会員に頼ってしまっているという現状が悩みだそうです。これを解消するためには、地域の住民と交流を深めて自治会活動を知ってもらうのが一番と、夏の盆踊りと9月上旬に行われる石神社の祭典での活動に力を入れているということです。



パトロール出発前みなさん

防犯パトロールによるきれいで、 安心なまちづくりを目指して

事例の概要

自治会法人田名四ツ谷自治会の歴史は古く、大正2年にはすでに現在の自治会の前身が組織され、活動を始めています。田名四ツ谷自治会は、犯罪を未然に防ぐ取り組みとして、平成16年から防犯パトロールを行っています。この防犯パトロールは、当時の自治会長の発案で始められ、毎月2回隔週の木曜日に田名四ツ谷児童館に集まり、パトロールメンバーが15人程度で3コースに分かれて巡回しています。自治会区域内を徒歩で巡回するほかに、青色パトロールカーを借りて広報活動も行いながら巡回します。また、巡回を行いながら、すれ違う人へのあいさつ等の声かけ活動やゴミ拾いを行っています。



大正2年の貴重な会議録

パトロール終了後は、その結果を報告し、放置自転車等があった場合には、その場所等が報告されます。

体験・取材した職員から一言！！



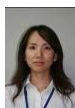
防犯パトロールに参加した際に、バス停にゴミが散乱してなく、とてもきれいに保たれていた光景を見た時、地域の皆さんの街づくりへの意気込みを感じ取りました。また、貴重な会議録を見させていただきまして、ありがとうございました。(市史編さん室 稲垣)



ある役員さんの「子どもは地域で守る」といった力強い言葉が印象的でした。地域を愛し、子どもを愛する気持ちが、子どもたちに代々受け継がれ、美しく安全な田名四ツ谷自治会が益々発展することを祈っています。(農林課 溝口)

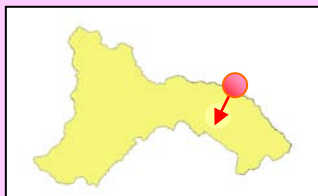


活動に参加して印象的だったことは、地域の防犯面での課題と将来どうすべきかを考えて防犯パトロールを実施している姿です。防犯パトロールは防犯面での貢献だけでなく、地域住民同士の交流の場であり、非常に有意義だと感じました。(生活支援課 水野)



人生初の自治会活動でした。今回は、難しい仕事ではなく、楽しくお手伝いをさせて頂きました。隔週であっても、勤めている方にとっては継続することが大変だと思っています。皆さんの熱意が伝わる体験でした。(スポーツ課 菊地)

団体の基礎DATA



団体名◇自治会法人田名四ツ谷自治会
世帯数◇1,357世帯
代表者名◇鈴木 文昭さん



事例の概要

青葉3丁目自治会は、相模原ゴルフクラブに隣接しており、一戸建中心の278世帯で構成され、99%以上という非常に高い加入率を誇る自治会です。

この高い加入率を活かし、防犯・防災・環境の各特別委員会を設け、それぞれ活動しており、さらには定期的なレクリエーションなど、幅広い活動を展開しています。

その中でも、自治会内で起きた空き巣や車上荒らしをきっかけに、防犯に対する関心が高まり、最も力を入れているのが防犯特別委員会です。

この委員会は、防犯パトロールを中心に実施しており、平成19年10月の組織設立時は19名のメンバーでスタートし、現在は24名で活動しています。

犯罪ゼロを目指して ～青葉3丁目自治会の取組～



防犯特別委員会によるパトロールの様子

特徴・ポイント

防犯特別委員会は、当初、定期的なパトロールを実施していましたが、それでは参加者への負担が大きいため、現在では「犬の散歩」や「買い物」などの移動の際に、腕章やベストなどを着用する方式のパトロールが中心となっています。

この「日常生活の活用」により、参加者の負担は軽減しつつ、頻繁でかつ切れ目のないパトロールが実現しました。現在では、月に250回、年間では実に約3,000回ものパトロールを実施しています。

さらに実際のパトロールでは、ただ巡回するだけでなく、コミュニケーションを図るための積極的なあいさつ、ごみや犬の糞などの自治会内の環境監視、一人暮らし老人宅の訪問なども実施しています。

また、防犯特別委員会のほかにも様々な活動が行われており、特に、80名で組織される防災特別委員会の活動は活発



贈呈された感謝状



防犯特別委員会の皆さん

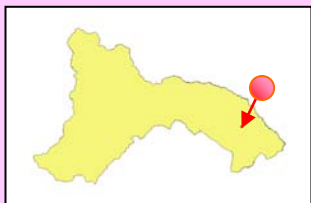
です。自治会内にあるすべてのごみ集積所への消火器設置、防災訓練、自治会の夏祭り会場での防災用品の展示などを行なっています。このような活動が評価され、平成20年に市自治会連合会から感謝状が贈られています。

課題・展望

防犯特別委員会では、様々な課題がある中、参加メンバーが固定化しつつあり、参加者が伸び悩んでいるのが現状です。

今後の展望としては、自治会内で発生した犯罪の被害状況や現場写真を明示するとともに、先進事例における犯罪数の減少効果や自治会での具体的なパトロール実績を回覧し、防

団体の基礎DATA



団体名◇青葉3丁目自治会
創立年◇昭和46年
会員数◇278世帯
代表者名◇岡林俊一さん



問い合わせ⇒岡林俊一さん
電話 042-712-5461

体験・取材した職員から一言！！



犬の散歩や買い物などの際に防犯グッズを着用しパトロールを実施しているところが、すばらしい工夫だと思います。自分達の地域を守る強い思いを感じました。
(津久井町地域自治区事務所 内山)



防災訓練・防犯パトロール・夏祭りにお伺いしましたが、どんな時でも自治会の皆さまは会話が絶えず、常々楽しそうに活動しておられました。加入率99%という数値以上の『団結力』がそこにはあり、これこそが青葉3丁目自治会の最大の魅力だと感じました。(道路管理課 小山)



活発な防犯パトロールや実践を想定した防災訓練を行うなど、積極的に自主運営に取り組んでいる先進的な自治会だと思います。今後も強い連帯感のもと、活発な活動が行われることを期待しています。(生涯学習課 田中)

この下九沢加藤原自治会には、「下九沢加藤原自治会自主防災隊組織要項」や「下九沢加藤原自治会防犯パトロール隊規約」などがあり、組織のあり方や管理体制が徹底されています。防災隊組織要項では、火災や災害が起こった際の隊長・副隊長・各班の役割などが細かく定められており、万が一の時に万全な体制が整っています。また、パトロール隊には規約とは別に遵守事項があり、どのようにパトロールを進めていくか、不審者を見つけたときはどうするかなど、10項目程定められています。

これらの防犯・防災活動は要項や規約にも定められていますが、強制的ではなく、すべて自主的に集まった者のみによって行われています。

それにも関わらず数多くの参加者が集い、地域のために汗を流しています。この防犯・防災への意識の高さがこの地域の安全を守っており、規約・第2条にある、「安心して住める



隅々まで歩きます

「街づくり」を実現させています。

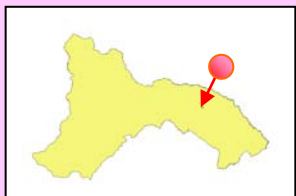
下九沢加藤原自治会地域には10数件の企業があり、それらの企業は「準会員」として自治会のメンバーにはなっていますが、地域の人との交流はあまりないのが現状です。今後は、その準会員の方々とも協力し合って防犯・防災活動をさらなるものにしていくのが目標です。

課題・展望



防犯モデル地区プレート

団体の基礎DATA



団体名◇下九沢加藤原自治会
発 足◇平成13年
世帯数◇61世帯
会長名◇延 昭徳さん



体験・取材した職員から一言！！



下九沢加藤原自治会地域は、コンビニ、郵便局、病院、特別養護老人ホームなどがあり、地域外から人が集まる地域です。それゆえ、このような防犯パトロール活動がいかに大事であるかということを考えさせられました。
(情報システム課 齊藤)



パトロールには会長のお孫さんも参加しており、パトロールのメンバーの方々とは触れ合っている姿を見て、この自治会の一体感をあらためて感じさせられました。(予防課 中村)



和気藹々とパトロールをしつつも、細かいチェックを欠かさず行っており、感謝状を授与される程のパトロール隊の意識の高さを実感しました。
(下水道管理課 長澤)



みんなで行うパトロール

「安心して住める街づくり」を目指す

事例の概要

下九沢加藤原自治会は規模こそ小さいですが、一体感があり、統率力のある会長を中心にお祭りや親睦会など様々な活動に取り組んでいます。中でも防犯・防災に対する取り組みは特出しており、子ども会と合同での防災訓練や、毎月2回程行われる夜間の防犯パトロールは非常に質の高いものです。

特徴・ポイント

下九沢加藤原自治会では、平成16年当時、自治会地域内で「タイヤのパンク被害」「ひったくりの被害」「注射針のゴミ集積所への投棄」「事務所あらし」など、住民を不安にさせるようなことが起こっていました。そこで、まずは自治会役員による夜間のパトロールを開始し、さらには20数名からなる「加藤原自治会防犯パトロール隊」を結成して防犯パトロール活動に努めてきました。その功労が認められ、平成20年には相模原北警察署推薦にて神奈川県防犯協会及び神奈川県警察本部長より感謝状を授与されました。



講習を行った谷戸公会堂

事故や災害は、いつでも起こるかわかりません。それに対応するために、救急救命講習を受講する年齢に制限を設けず、幅広い年齢層を対象としています。救急救命講習当日は、小学生からお年寄りの方まで幅広い年齢の自治会員が集まりました。

また、救急救命講習は、人形を囲んで実習形式で行われるため、今まで知らなかった方とも自然とコミュニケーションを取るようになります。会話をし、人と人の繋がりを深めることが、事故や災害時にも役立ちます。

特徴・ポイント

課題・展望

今年度から開始された救急救命講習ですが、毎年継続して10名程度の人が受講することにより、10年後には、谷戸自治会の1家に1人は、救急救命講習修了者になる計算になります。救急救命講習修了者が増えれば、初期救命活動がしやすいだけでなく、日ごろの防災活動に対する意識向上にも繋がります。

しかし、実際に災害や事故が起きた場合、救急救命講習を受講しただけでは不安が残ります。災害や事故発生時、地域では救急救命活動だけでなく、災害弱者の救助・非常用食料の確保・避難ルートの確保・家族との連絡等多くの活動が求められます。

そうした際でも、パニックにならず行動ができるよう、自治会内や家族の間で行動マニュアルを整備し、災害に備える必要があります。今回の救急救命講習が、地域防災力を高めるき



2組に別れて、救急救命講習を開催

災害に強いひとづくり ～救急救命講習～

事例の概要

谷戸自治会では、御嶽公園や道保川の清掃・お祭り・どんど焼き等、年間を通して多くの行事を開催し、地域でのコミュニケーションを大切にしながら活動しています。また、閑静な住宅街で夜間静かであるという地域の特徴から、自分たちで地域を守るための防犯活動も充実させています。防犯灯の設置・防犯パトロール・防犯チャリンの配布を継続して実施し、効果を上げてきました。

今年度、新規行事として、災害や事故が起きた際にお互いに助け合うことができるよう、自治会員12名を集め、救急救命講習を開催しました。救急救命講習当日は、消防隊員2名の指導のもと、心臓マッサージや人工呼吸の方法、AEDの使用方法について人形を使った実習を交えて学びました。



のぼり旗

つかけになることが期待されます。



中学生も AED に挑戦

体験・取材した職員から一言！！

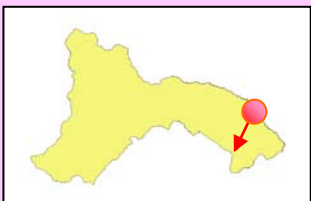


各自治会が自主防災に力を入れているところですが、計画的に救急救命講習を行い、「各世帯に一人は講習修了者を」という、壮大な計画に驚かされました。参加された皆さんの真剣な表情から、非常時にはきっと今回の講習が役に立つと感じました。(拠点整備課 一本鎗)



参加された皆さんが、救急救命講習に真剣に取り組んでいたのが印象的でした。こうした日頃の活動が、いざという時に地域の力になるのだと感じました。10年という長い期間の計画なので、今後が楽しみです。(文化国際課 斉藤)

団体の基礎DATA



団体名◇谷戸自治会
創立年◇昭和50年
世帯数◇116世帯
代表者名◇熊耳 尚己さん



問い合わせ⇒熊耳尚己さんまで
電話 042-778-2254

「地域力の達人」について

○発行までの経緯について

今回発行しました『地域力の達人』は、相模原市地域活動事例集（自治会編）平成21年度版〜は、地域における公共的な課題解決を自主的に行っている「自治会」の活動を中心に事例集としてまとめ、広く市民の方に情報提供したいと考えて、昨年度に引き続き作成したものです。

自治会は、日々の公共的な活動に加え、新たな領域の活動にも取り組むなど、地域における役割の重要性が増す一方で、担い手の不足や、役員の高齢化、活動への参加者の減少、未加入者への対策など多くの課題を抱えています。

これらの課題は、今に始まったことではなく、長年にわたって自治会の皆さんを悩ませてきた問題だとは思いますが、近年の少子高齢化や都市化の急激な進行により、その問題がさらに顕著になってきたといえます。

例えば、平成17年度に相模原市自治会連合会が行ったアンケート結果等によれば、自治会活動の主な課題には、次のよう

なものがあります。

自治会加入率の低下
地域活動の担い手不足
地域活動参加者の減少
役員の高齢化、地域の子どもの減少
団塊の世代の地域帰帰への対応
ボランティアや市民活動の更なる充実
地域人材の育成
一人暮らしのお年寄りの増加など高齢者対策
行政側の縦割りによる、地域団体の縦割り、行政からの依頼業務の増加 など

自治会の加入率の低下や参加者の減少など自治会自身が解決すべき課題もありますが、広く公共的な活動を担っていることや、住み良いまちづくりを目指す中で行政が推進する事業等に協力をいただいていることが、自治会の皆さんの負担感を増加させ、役員の担い手不足に繋がっているという側面もあります。

自治会の皆さんが主体的に行う活動を充実させる上においても、行政からの依頼業務についての見直しが必要な時期を迎えているといえます。

このような課題や問題に対する対策を考えるため、相模原市自治会連合会では、内部組織として平成19年7月に「地域を元気にする検討会議」を立ち上げ、相模原市自治会連合会の役員だけでなく、地区社会福祉協議会、公民館、行政の関係者を変えて、自治会の諸問題について検討を進めてきました。

その結果は提言書としてまとめられ、行政に対する提言として、「地域活動を知るための研修の企画実施」や「市の広報媒体を使った自治会活動情報の周知の充実」という項目もありました。

この事例集の発行は、この行政に頂いた提言を実現する取り組みとして実施されましたが、自治会活動の取材を職員研修の一環として行うことで、職員が直接地域活動を体験することのできる貴重な機会にもなりました。

○地域政策形成能力開発研修

今回実施した地域活動を知るための職員研修とは、本市では、「地域政策形成能力開発研修」と呼んでいます。この研修で言う「地域政策形成能力」とは、「地域における政策形成を行うために、地域における実際の活動や現場の課題などを肌で感じて、そこから課題解決に向けた企画や立案をしていく能力」と考えています。

このような能力は、全ての市職員にとって必要なものでありますが、本市では、比較的若手の職員を対象に実施しています。

今回体験した職員からは、「自治会活動は、親が行っており、自分自身はほとんど関心をもっていない感でしたが、今回取材をして実際に活動をしている方は、こんなにも熱い思いを持っているのかと衝撃を受けました。この熱い思いをどうすれば地域全体に広げていけるか、また自分自身の自治会への関わり方も含めて今後考えていきたいと思いました。」「自治会の方々は大変行政にも関心をもっているし知識も高く、また年齢的にも人生経験豊富なのでお話を聞いて学ぶことが多かったと思う。」などの感想が聞かれました。

体験した職員には、取材や報告書のまとめなど苦勞も多い研修だったようですが、

それでも、この研修を通じて、地域の現場に出ることにより、今そこにある課題を実感する必要性への認識が高まったものと考えています。

今回企画した研修は、地域を元気にする検討会議での提言がきっかけですが、行政においても、職務の広域化、高度化、専門化により、地域の現場に職員が職務として出向き、地域の皆様と一緒に活動することが少なくなってきたという課題があります。

このため、今後も、このような形で職員が地域の現場に出向き、体験する研修などを通じて、地域の声を政策に反映できる職員を育成していくことが重要であると考えています。

○市民協働のまちづくりへ向け

相模原市は、平成22年4月に政令指定都市へ移行しますが、このことにより、職員にはこれまで以上に、的確な市民サービスの提供、課題解決などについて高い能力が求められることとなります。

しかし、基礎自治体の職員として、市民協働のまちづくりを進める上で大切なことは、やはり地域にお住まいの市民の皆さま

ん方や、地域活動、市民活動を行っている団体の方々の活動の「現場」を知り、その中から課題を発見し、解決に向けた施策の立案へと結びつけることができる能力であると思います。

また、このような現場感覚を養うとともに、日々の業務遂行の中からも現場の課題を捉えることを常に意識することに加えて、市民も職員も共にまちづくりを進めるパートナーであるという共通認識が持てるよう、お互いの役割に応じた責務を果たしていくことが重要だと思っています。

このような理想的な関係は、言葉では綺麗に言うことはできませんが、実際の取り組みは、拙速に事を運ぶことのできない、大変時間のかかる難しい取組であると言えます。

難しい取り組みではありますが、失敗を恐れずに、新たな仕組みへ果敢にチャレンジする気持ちを持って取り組み、地域にお住まいの「地域力の達人」の皆様とともにまちづくりを進めていけるような体制づくりに今後も取り組んでまいりたいと考えております。

「地域力の達人」 ～相模原市地域活動事例集（自治会編） 平成 21 年度版～

平成 22 年 3 月 発行

発行者 相模原市 市民局 市民活力推進部 市民協働推進課

住所 相模原市中央 2－1 1－1 5

電話 0 4 2－7 5 4－1 1 1 1 （代表）